



没後76年墓前祭 小林家墓前に献花する人々 北海道小樽市 2月20日



417

編集発行人 針谷宏一  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461  
FAX 03(5842)6462  
http://www17.plala.or.jp/chian  
定価 50円

# 戦後補償の一翼をにない 国賠署名拡大で政治を変えよう

わが国でも、「蟹工船」ブームを呼んだ派遣労働者たちの失業と貧困にたいするギリギリのたたかいは、今全国で社会的連帯を広めており、「多喜二祭」など小林多喜二を虐殺した治安維持法への関心も高まっています。二月に開かれた治安維持法犠牲者の横浜事件裁判は、ついに司法の手による証拠類焼却や「共産党再建会議」のでっちあげを事実上認めるに至り、残るは免訴でなく「無罪」と正義の回復でしかないことをしめしました。治安維持法が人道に反する希代の悪法であることを認めさせる同盟の国賠要求の前進は、さしせまる総選挙選にも大きく貢献することを全会員の確信にしていきたいと思います。

## 主な記事

署名目標実現へ、各地の取り組み	2
各地の「多喜二祭」	4
顕彰碑 / 中西功兄弟の墓碑	5
時の焦点 / 衆議院の3分の2条項	5
抵抗の群像 / 弾圧化の犠牲者救援活動 仙台・渡辺正彦	6
同盟歌壇 / 碓田のぼる選	7
書棚 / 『多喜二の時代から見えてくるもの』 荻野富士夫	7

# 署名目標実現へ 各地のとりくみ急ピッチ

一月二十三日開かれた中央常任理事会は、こんにちの緊迫した情勢下、同盟の任務の重要性を改めて確認し、翌日、会員五〇〇名以上とそれをめざしている比較的大きな県本部による交流討論会を開催。ついで常任理事会に参加していない県本部の交流討論会を名古屋、東京、福岡の三方所で開催。延べ二十七県本部が出席。

二つの交流会では、常任理事会の方針を受けて討論し、署名目標の六〇％を3・15までにやりぬき五月国会請願へ向けての奮闘を誓いあいました。以下、参加された都府県から、寄せられた活動状況レポートを要約してご紹介します。

## 先進支部の教訓を生かす

### 《山形県》

弾圧を覚悟で反戦平和、国民主人公の社会変革を求めて闘った人々に学び、感謝の証であり将来に継承するための署名活動が、各県の目標を達成できれば、全国五〇万署名達成実現の一步となる。と考えて毎年取り組んでいます。

県本部として、県大会後、支部の到達数を決め、県目標達成まで中間目標を設定して集約しています。九月末三〇％、年末五〇％、三月末まで八〇％、国会行動の月

は県本部として一〇〇％としています。しかし、すべての支部が同じように進むわけではありませんが、現在、目標を超過達成して県の牽引役を果たしている酒田支部の特徴は、前年度の国会行動後すぐ新しい署名活動に取り組んでいる。支部発行の「不屈」を友好団体に大量に配布して、活動を知らせている、などです。

## 県内八支部建設が前進の力ギ

### 《千葉県》

年末の署名目標が未達成だった

ので、一月の役員会で意思統一。再度、会員あての「訴え」を出すとともに団体依頼の確認、新たな依頼など決めて取り組んでいます。

土建船橋支部の協力が大きく、二月初めにやっと四〇％を越し、新しくできた支部が新婦人や民商への協力依頼を始めるなど、目標達成をめざして取り組んでいます。

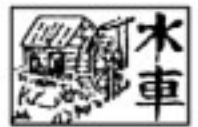
拡大では、昨年から八支部への手だてと合わせて拡大を進め、二〇名近くの新会員をむかえて、六月の県本部総会までに目標を達成しようとして取り組んでいます。

「同盟って何」「なんで古いことを」などの疑問に、同盟の役割や今日的意義を訴えの中心に行い、新たな入会者が会員を増やす経験も生まれています。

## 前進の背景に政治への怒り

### 《東京都》

東京都本部は一月署名で五八〇〇筆を増やし一万四〇〇〇筆に達しました。前年に比べ二〇〇〇筆プラスです。特に土建労組が全体の六〇％を占めて大きく貢献しています。この背景には、不況のし



悪力キ時代から八十路にさしかかるまで親しくつきあっていく友人の体験談 中学二年のとき「古事

記」に読みふけり、級友たちに歴代天皇の乱行・醜行を吹聴していたら陸軍高官の息子が父に言いつけて大問題となった。御両親の必死の奔走で退学は免れたものの、校長室で憲兵と特高の取調べを受けた。「国体を変えるなんて考え言葉にすれば死刑だぞ。まあお前は未成年だから死刑にはならんがな」と威迫された。「思い出しても腹が立つ」と述懐する。さて六七年後の今、改憲国民投票の一八歳以上の新選挙人名簿作成の予算を計上する自治体が出てきたと聞く。「若者の声も聞こう」といふ善意からではないことは明白教育基本法を改悪し、愛国心道徳の強制、自衛隊演習見学、靖国神社集団参拝も可など「戦争する国」の人づくり策動が次々と打ち出されてきている。「教え子を再び戦場に送るな」のスローガンのとりくみは正に正念場だ(丁)

わ寄せへの怒り、自公政権批判の強まりがあります。

東京は七月に都議選があり、衆議院選挙とともに街は選挙一色の様相です。都本部は中央の常任理事会の決定を受けて、二月六日に役員会を開き「同盟活動も選挙も全力で！」を合言葉に打って出る意思統一をしました。

そのためには署名活動でも取り組んでいるのは同盟員の二、三割に止まっている状態を克服し、活動参加を大きく広げること、賛同団体を広く組織することが、独自活動でも選挙でも前進する力ギとなつていきます。

### 署名を全会員による取り組みへ

《愛知豊》

県本部では、中央常任理事会と、たいするギャップを埋めるため奮

それにもとづく名古屋で開かれた六県の交流会から学んで、これまでの活動を反省して、次のことを確認して活動することとしました。

署名の遅れを克服するために、全会員のとりくみにする努力。署名用紙は「訴え」を付けて渡す。会員の取組の割合を把握して促進する。

民主団体への申し入れをひろげる。労組、民商だけでなく、女性、宗教者、青年、学生団体にもひろげる。名古屋に支部のないのが弱点。組を組んで名古屋に入り、署名、会員拡大をすすめ、支部づくりをすすめる。

会員拡大の停滞を打開する。

## 国会請願は5月19日(火)に決定!

衆議院第一議員会館第一会議室 午前11時  
署名を持って全県からご参加ください

闘する。

### 山宣祭、日本のうた「えと共」

《京都府》

「山本宣治生誕一二〇年・没後八〇年」。京都では三月五日の宇治での山宣墓前祭を基点に取り組まれます。三月十九日には、黒谷墓地で国領墓前祭、続いて生活防衛のさまざまな集会、民主団体の大きな行事が予定されています。

五月二十四日には同志社寒梅館ホールで、治安維持法犠牲者の林直道大阪市立大学名誉教授の記念講演があり、国賠同盟京都府本部も参加する実行委員会が主催して開かれます。

同盟京都の二月幹事会では、国賠署名をこの運動のなかで訴え、大きく広げること、また十月に京都府立体育館大ホールで一万人規模の「日本のうた「え」が予定されています。その成功をめざし、

今町内規模のうた「え」運動が京都各地各分野で企画され、「うた「え」新聞」に紹介されています。同盟員も歌声を平和の力と楽しく署名を広げていくため、場所、日時

を「不屈」京都版で紹介することでも決めました。

### なんとかしても署名目標達成へ

《島根豊》

島根県は〇六、〇七年度と有権者比一%を超える目標を達成しましたが、昨年度は目標の七八%に終わりました。

それは、二年続けて目標を達成したから何とかなると樂觀し、全会員と必死によびかけ、広く団体、個人に要請するなど、全力をあげなかつたことがその原因です。

一月に一泊二日で開いた幹事会では、同盟活動を、情勢の大きい変化と発展に対応するものに飛躍させること。3・15までに目標の六〇%をめざし全力を挙げることを確認しました。

また「聳ゆるマスト」DVDを会員数に見合う二五〇本普及を決め、これまでに約六五%を普及、署名活動を促進する大きな役割を果たしています。

今年は七五〇〇の目標を必ず達成し、早く一万の目標を目指すようにしたいと決意しています。

# 各地の多喜二祭

## 【秋田県】

多喜二は生き続けている

秋田県多喜二祭は二月二十一日、秋田市の県生涯学習センターで開催。韓国と県内外から二〇八人が参加。わらび座の近藤進さんが『蟹工船』の作品朗読、続いて二〇〇九年県多喜二祭賞を元十文字町長の西成辰雄さんと慶州ナザレ園協力の松島啓昇さんが受賞。

秋田県大館市の小林多喜二記念の集いは、二十二日開催、七十四人が参加。両会場とも歌人碓田のぼるさんが「いまに生きる小林多喜二ー私が学んできたこと」と題して講演。「多喜二は殺されても文学として生き続け、資本主義の弱さが露呈しているいま、人々を励ましている」と語り、参加者に深い感銘をあたえました。

## 【神奈川県】

「第8回 神奈川県七沢 多喜二祭」  
二月二十一日(土) 伊勢原市

民文化会館 映画「蟹工船」昼・

夜上映 主催挨拶「小説『蟹工船』について」相原進(多喜二研究家) 講演「多喜二、愛とたたかい」澤田章子(日本民主主義文学会)。会場には約四〇〇人参加、

講演では、多喜二の母と家族への愛、恋人タキへの愛、多喜二文学にみる女性像と党生活をとおしての多喜二像など、現代に生きる人々へ大きな希望と勇気を与えていると話されました。この集いの中で複数の同盟入会者と国賠署名多数が寄せられました。主催は多喜二ゆかりの七沢を知らせる歴史と文学を広める会、後援は同盟神奈川県本部です。

## 【兵庫県】

「『蟹工船』がいま問いかけるもの」  
二月二十二日(日) 神戸生田文化会館 特別報告「青年は『蟹工船』をどう読んだか」そして彼らはたちあがった」山口さなえさん(「蟹工船」エッセイコンテスト受賞者) 記念講演「現代を撃つ、文学の力」田島一(作家)。

会場には一八〇人参加。主催者

として同盟兵庫県会長佐野陽三氏は、「多喜二虐殺の背景には日本の中国侵略があり、多喜二はその犠牲となった。多喜二に学び、再び戦争はしない立派な国づくりを」と挨拶されました。

## 【東京都】

党員作家多喜二の成長を学ぶ

杉並・中野・渋谷多喜二祭は二月二十日、中野ゼロホールに四〇〇人が参加。記念講演は小樽から駆けつけた荻野富士夫氏。多喜二の手紙を通じて、多喜二自身の党員作家としての成長の過程、田口タキへのこまやかな情愛と知的精神へのはげましなど、わかりやすく話されて好評。村上弦一郎氏のピアノ・シヨパン特集「はことしもまたなりやまめ拍手。春近しを思わせる心温まる一夜でした。」

## 【北海道】

多喜二の墓前に献花

没後七六年の小樽「多喜二祭」は二月二十日、まず奥沢墓地の小林家墓前で開かれ、同盟大阪府ツアリーの十五人をはじめ百四十人が

参加、花を手向けました。道本部の外尾静子会長がメッセージ(伊藤俊事務局長代読)を寄せました。

四〇〇人が参加した記念の夕べでは、浜林正夫一橋大学名誉教授が「極める眼」多喜二の『蟹工船』をどう読み解くか」と題して講演、「搾取の典型を国際、軍事、経済の諸関係の中で透き通るような鮮明さで描いた」と話しました。

## 【大阪府】

多喜二の火を継ぐ多喜二祭

一昨年、数十年ぶりに復活した大阪多喜二祭は今年も二月二十八日、大阪市立中央区民センターで開催。が参加されまし

た。昨年九月 英国オックスフォード大学・小林多喜二シンポジウムで発表した尾西康充三重大学教授が「現代の格差社会から『蟹工船』と題して記念講演を行いました。文化行事としては、シンガーソングライターのケイ・シユガーさんが弾き語り。また多喜二の遺品も含む「小林多喜二資料展」も開かれ、感動と充実したつどいとなりました。

顕彰碑  
探訪

# 墓碑に刻む不屈の意志

## 中西功兄弟の墓碑

同盟の会長を長くつとめた中西三洋兄弟の墓が東京・小金井市の多磨霊園にあります。昨年四月、三洋元会長の納骨式があり参加しました。

墓は中西功、篤、三洋、五洲の四兄弟の墓として建てられたもので、通路に面した碑面には「中西家の墓」とありますが、裏面に「中西功兄弟反戦闘士の碑 世界人類の解放のために最後の血をも捧げん」という功氏の言葉が刻まれています。



(佐藤滋朗記)

捕され死刑を求刑されましたが、敗戦により釈放。戦後は共産党神奈川県委員長、参議院議員などをつとめました。墓碑に刻まれた「不屈の意志」を示す文字は、納骨式の参加者に感銘を与えました。

篤、三洋、五洲の三兄弟は次兄功氏の思想的影響を受け、戦前、いずれも三重県の生家を出て革命運動に参加、全員が治安維持法違反で投獄された闘士一家でした。

三洋元会長も一九三五年(昭一〇)、大学に入ると親に偽って上京し、運動に参加したといえます。

中西功は昭和初年に中国・上海の東亜同文書院に在学中に中国共産主義青年団に入って活動。帰国後は理論的指導者として兄弟に強い影響を与えました。四二年に逮

「3分の2」を使ってまで必要な事柄ではない」

「いまさらなにを言うか。肅々と3分の2を行使する」

小泉元首相と政府与党の定額交付金をめぐっての対立が起こり、「3分の2条項」があらためて話題となっていました。

憲法五九条二項は「衆議院で可決し、参議院でこれと異なつた議決をし

**焦点**  
た法律案は衆議院で出席議員の3分の2以上の多数で再び可決したときは法律となる」と定めています。

二院制の議会制度の中で、条約や予算の先議権、首相の選任権などと、この法律制定上の「3分の2条項」が、衆議院の優位性を象徴しています。

衆・参ねじれ国会の情勢の中で、去年のイラク特措法延長議案を皮切りに、政府与党により多用されはじめてきました。

## 衆議院の3分の2条項

衆議院可決 参議院否決 両院協議会不調 衆議院3分の2再可決の流れの中で決め手が「3分の2条項」です。

ねじれ国会での「3分の2条項」の頻発。本来伝家の宝刀はむやみに振り回すものではなく、まして今日自公政権と与党に付託された3分の2は、その実「郵政民営化」の公約についてだけのはず。

憲法の議会制民主主義の本旨からすれば、ねじれ国会の状況下では、「両院協議会」を形骸化とせず、妥協案の審議作成をめざして十分に機能発揮することこそ重要です。

事実、言論の府の国会で「3分の2条項」はむしろ禁じ手として、去年まで半世紀以上使われないできました。

五三年前の「モーターボート競走法」以外自民党独裁政治の継続や国会のねじれ現象のなかつた歴史的経過もありますが、3分の2で強行した「モーターボート競走法」の反社会性のトラウマによるものと思われま

## 抵抗の群像

## 弾圧下の犠牲者救援活動

## 仙台・渡辺正彦

私は一九一〇（明治43）年二月、越後の山村に生まれ、新潟高校から東北帝大医学部一年に入学したのは一九三一（昭和6）年の春です。その前年には東北帝大、二高の全協（組合班）、新聞班、「戦旗」支局などの組織、選挙闘争同盟、犠牲者救援会などに弾圧が加えられていました。

私はまだ人道主義者でしたが、科学的社会主義に目覚めさせてくれたのは日野五郎君でした。学内の非合法のRS（読書会―社会科学研究会）に日野君が誘ってくれ、私は学業とともに、科学的社会主義を勉強し、社会的矛盾の解決には社会変革が必要と結論しました。その頃、日本共産党オルグとして派遣されてきた佐伯真雄と会い、左翼学生運動の意義、東北地方の飢饉状況などを聞き、私は躊躇なく日本共産主義青年同盟に加盟、

官製とは別の自治学生会（自学）に参加して、「授業料の値下げ、凶作地出身学生の授業料免除」などのたたかいに参加。この年九月十八日、の満州侵略となり、日本共産党の反戦運動のよびかけにこたえて、「反戦ピラ」を貼りました。ある日の深夜、私は一人で自宅近くの内務省土木出張所の構内に「反戦ピラ」をベタベタ貼り付けたところ、翌朝、特高警察に寝込みを襲われ検挙されました。それからしばらくは真面目に講義に出席していましたが、しかし階級闘争が私の生きがいある道であることはいっそう確信していました。一九三二年に日野五郎君から連絡が入り、解放運動犠牲者救援会の任務につきました。すでに宮城刑務所には仙台の四・一六弾圧で懲役三年六か月で投獄されている多田基一氏はじめ治安維持法によ

る弾圧犠牲者が多数収監されており、多田基一夫人は幼女を抱えて一人で苦闘していました。救援会も半非合法組織で、犠牲者救援の金品を提供するだけでも「共産主義運動の目的に寄与する」として治安維持法の「目的遂行罪」で容赦ない弾圧にさらされています。私の救援会活動は、まず多田基一夫人みどりさんと会い、みどりさんの話を聞く会を隠密裏に開いて大学法文・医学部、二高の学生多数から犠牲者救援のための差し入れの金品を集める活動です。月一回、五円、十円とみどりさんに渡しました。米が一升二十五銭の時代です。しかし面会差し入れは、肉親以外はすぐ特高に目をつけられるので、みどりさんだけが合法的救援活動家となりました。やがて私は仙台の救援会準備会の責任者となり、すぐ医学部班委員会を結成、法文二十名、医学部二十五名、二高二十五名、仙台高工十名を組織しました。その後、日本赤色救援会本部から連絡が届き、「救援新聞」百部とピラが送られてきました。

この年、仙台市東一番丁の映画館文化キネマの従業員待遇改善要求から始まる争議を支援し、二〇〇人のデモとなりました。

翌十一月十七日払暁、私は特高に寝込みを襲われ、検挙。言語に絶する拷問が待っていました。殴る蹴るは朝飯前で、からだは紫色に腫れあがり、続いて今度は水攻めです。特高は「このア力野郎、殺してやる。天皇陛下の命令だ」と言って私を真つ裸にしてテーブルに仰向けにくくり、土瓶で水を鼻と口から流し込む。何度も失神するうちに、私は窒息死の恐怖に負け、三日目の拷問で心ならずも転向を口にしました。二十三歳で沼警察署に移送、二か月留置の後処分保留のまま帰宅しました。

わが同志、親友の日野五郎は、拷問と長い未決拘留で結核となり、釈放後、不帰の人となりました。私は一年後復学して医学部を卒業、二十六歳で旅順に赴任。敗戦の日、初めて心に一点の翳りもない喜びに満たされました。（「不屈 宮城版 二〇三より要約・編集部」）

同盟歌壇

碓田のぼる選

新潟県 柳川 月

根雪なく雨降る冬を過ごしをり病める地球に老い深みつつ

評 地球温暖化による気候の異変の中で老いを深める者の嘆き。

千葉県 高山 義人

無惨死の多喜二今こそ甦れ若者の手に『蟹工船』八十万部

評 『蟹工船』ブームといわれる。小林多喜二の文学は不滅。

和歌山県 中平 喜祥

春になる気配をわずか感じつつ一人の生涯の歌読みてあり

評 春を待つ思いが「一人の生涯」の歌にもあったのであろう。

静岡県 江川 佐一

分教場に学びて本校は年二回のみ河津校は今人を呼ぶ

評 河津校に人の集まるにぎやかさよ、小学校生活を重ねての今昔。

東京都 若林 義人

地球規模の平和の乱れ宗教の対立ふくめ唯(いが)み合いなり

評 宗教さえも抗争の火種となり、平和が危機におかれている怒り。

新潟県 加茂川 ハル子

暖冬に怒涛の如く滝落下氷結の滝見学のツアーに

評 「氷結」せず「怒涛」となった滝も怒りをもっているよう。

岐阜県 和田 昌三

かつて買ひし多喜二全集復刻版を取り易き棚に移し替えたり

評 さり気なく歌いながら、背景に多喜二のよみがえりがある。

東京都 すゞ木すみ江

たらちねの母白寿にて逝きしあくる日メスは入りたりわが左胸に

評 一月に乳癌の手術との付記あり。自愛して作歌をと切に祈る。

福井県 元山 章一郎

りハビリにて知りたる古老耳もて「お毛の党」んどは伸びまっせ

評 古老だけでなく、古老の周囲の人々もみな党支持者との感じ。

書棚

『多喜二の時代から見えてくるもの』

― 治安体制に抗して― 荻野富士夫

新日本出版 定価二五〇〇円(税別)

「蟹工船」ブームが続く中で小林多喜二に関する様々な本や論評・記事などが出されている。本書は、

二〇世紀前半の、戦争と抵抗のせめぎあつた時代を「多喜二の時代」と称して、「今日の状況を再び『多喜二の時代』が近づいているのではないか」、「戦争のできる国家への多方面からの着実な体制整備が進行しつつある」として今日「多喜二の時代を学ぶことは、極めて現代的意義をもつ」と「蟹工船」ブームを深部から掘り下げた新たな多喜二論である。

著者は、若くから「治安維持法関係資料集」全四巻を纏めるなど、治安体制研究の第一人者である。「治安維持法と現代」〇八年春季号は、三・一五大弾圧八〇周年記念特集を組む、氏の論文が巻頭を飾った。その

論文が若干加筆され、本書の第一章、小林多喜二から見えてくるもの、「蟹工船」から見えてくるもの、「暴圧」と対峙する多喜二、第二章、治安体制から見えてくるもの、「治安体制」の深さと広がり、戦後治安体制への継続と断絶、第三章「横浜事件」から見えてくるもの、「多喜二」虐殺から「横浜事件」へ、神奈川県特高警察の暴走。数

年来の作者の関心に従って、この三つの方向から過去と現在を照射して、抑圧する側とそれに抵抗し変革を希求する側の拮抗を、多喜二「全集」書簡や当時の新聞、雑誌の報道、時には『特高月報』

『特高警察関係資料集』など豊富な資料を駆使して実証してみせている。終章での間近に迫った横浜事件再審公判への期待、敗戦後の特高警察「解体」後にも継承されてきた神奈川県警など、興味ある

記述が盛り沢山で面白い。(荻)



# 山本宣治生誕一二〇年・没後八〇年 記念事業を成功させよう

山本宣治生誕一二〇年・没後八〇年を迎え、三月五日山宣墓前祭(主催 山宣祭実行委員会)を宇治市善法墓地で開催するほか、記念事業実行委員会(代表 安斎育郎)を結成。記念事業成功へ、協力を呼びかけています。

主な記念事業は次の通り。

**全国交流会**  
日時 5月23日(土)午後6時

場所 花やしき浮舟園  
会費 7000円  
当日は午後から宇治の散策も計画

**記念講演会**  
日時 5月24日(日)午後2時  
場所 同志社大学今出川キャンパス  
記念講演 「山本宣治と現代」  
林 直道・大阪市立大学名誉教授  
参加費 無料  
事務局 宇治市職員労働組合気付

## 横浜事件の3月30日判決にむけ 「無罪」を訴えよう

横浜事件第四次請求の再審初判が二月十七日横浜地裁で開かれ、検察側は治安維持法廃止などを理由に裁判を打ち切る「免訴」を主張。大島裁判長は、裁判所の記録焼却処分を「まことに遺憾」であるとし、ビデオも上映。再審請求人故小野康人氏遺族の次男新一さんと長女の斎藤信子さんが亡き父母の口述書を朗読、拷問のむごさを怒りをこめて証言しました。

弁護側は「司法は、治安維持法ゆえに無念の思いで死んでいったすべての人々に代わって、正義の実現を」と述べました。三月判決にむけ、同盟中央は横浜地裁へ「無罪を」の声を全国から強めることをよびかけました。

同盟中央の「完全無罪判決への要請文」は各都道府県本部に送付。

宛先 〒299118502  
横浜市中区日本大通9  
横浜地方裁判所  
大島隆明裁判長殿

### 事務局日誌

電話 〇七七四 二二一 五六五三

2月5日 国際人権活動日本委員会  
2月7日 国民救援会中央委員会  
2月10日 安保破棄実行委員会全  
国代表者会議  
2月27日 人権シンポ「国際水準から見た日本の人権」

【訂正】本紙新年号「西日本」版4頁一段目日本共産党京都市会議員の電話を〇七五 二二二 三二七八に。同10頁二段目鳥取民主商工会連合会から境港民主商工会までの四団体を、次の通り訂正します。ご指摘を受けながら、訂正が遅れたことをお詫びいたします。

- 鳥取県民主商工会連合会  
鳥取市西品治一〇五  
〇八五七 一四 五一九一
- 鳥取民主商工会  
鳥取市西品治一〇五  
〇八五七 一四 五一九一
- 米子民主商工会  
米子市博労町三 九〇  
〇八五九 一三 三八六〇
- 境港民主商工会  
境港市湊町五五  
〇八五九 四四 二〇一〇

同盟創立40周年  
記念特集号

## 『治安維持法と現代』

2008年秋季号  
好評発売中



【主な内容】座談会「戦後補償運動の発展と同盟運動の課題」吉岡古典・浜林正夫・近江谷昭二、語「戦前天皇制政府の戦争責任と政治責任」山田朗、「治安維持法犠牲者」と五郎、語り合おう「大川芳夫・荒川次郎・西川治郎・永井潔・山下懋「戦後、日本の平和の進路を」発行の阪口喜一郎の足跡を追って」小栗勉、「古川苞不屈の生涯示す新資料発見」佐藤明夫、「スペインの『歴史の記憶法』」吉田好一など学習材料が満載。A5版、定価1000円、送料60円、各都道府県本部でお求めを。

治安維持法と現代を結ぶ総合誌 企画・編集 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟